

個人投資家さま向け

日本酸素ホールディングス株式会社 (証券コード：4091)
企業説明会
～進取と共創。ガスで未来を拓く～

2025年11月4日
財務・経理室 IR部長 梶山 慶太



重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション」とは、本プレゼンテーションにおいて、日本酸素ホールディングス株式会社（以下、「日本酸素HD」）によって説明または配布された本書類、口頭でのプレゼンテーション、質疑応答及び書面または口頭等の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明および質疑応答を含みます）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内もしくは勧誘、または、いかなる投票もしくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明または形成するものではありません。また、これを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより、株式または有価証券の募集を公に行うものではありません。本プレゼンテーションは、投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく、情報提供のみを目的として、受領者に使用されるという条件の下で、受領者に対して提供される追加情報とともに提供されております。この制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券関連法規の違反となる可能性がございます。日本酸素HDが直接的に、または間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「日本酸素HD」という用語は、日本酸素HDおよびそのグループ会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。また、同様に「当社、当社グループ」という用語は、子会社全般またはそこで勤務するものを参照していることもありえます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることがあります。

・将来に関する見通し情報

本プレゼンテーションおよび本プレゼンテーションに関して配布された資料には、日本酸素HDの理念または見解、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジションおよび業績に関する将来見通し情報、見積もり、予測が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする」「計画する」「信じる」「望む」「継続する」「期待する」「めざす」「意図する」「確実にする」「だろう」「かもしれない」「すべきである」「であろう」「することができた」「予想される」「見込む」「予想する」などの意思や推量をあらわす用語もしくは同様の表現またはそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られません。これらの将来見通しに関する情報は、多くの重要な要因に関する前提や想定に基づいており、実績としてあらわれる業績では、将来見通し情報を通じて明示または暗示された将来の業績とは異なる可能性があります。その重要な要因には、国内外の一般的な経済条件を含む、当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の開発・出現、関連法規の変更、規制当局による判断とその時期、金利及び為替の変動、販売された製品または試験・候補製品の安全性または有効性に関するクレームまたは懸念等、新型コロナウイルス感染症のような健康危機が当社の事業を行う国・地域の政府を含む当社とその顧客および供給業者に及ぼす影響、買収対象企業とのPMI（Post Merger Integration:買収後統合）の時期及び影響、日本酸素HDの事業資産を売却する能力およびかかる資産売却のタイミング、当社のWebサイトにおいて閲覧可能な日本国の有価証券報告書関連法規に沿って提出された最新の年次有価証券報告書及び当社の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。日本酸素HDは、関連法規や証券取引所の関連規制により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる情報または当社が提示するあらゆる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は、将来の経営結果の指針とはなりません。本プレゼンテーションにおける日本酸素HDの経営成績は、日本酸素HDの将来の経営成績またはその公表を示すものではなく、その予測、予想、保証または見積もりではないことにご留意ください。

・国際会計基準（IFRS）に準拠しない財務指標

本プレゼンテーションには、コア営業利益、有利子負債、純有利子負債、調整後ネットD/Eレシオ、フリー・キャッシュ・フロー、ROCE after Taxのように、IFRSに準拠しない財務指標（以下、「当社独自指標」）が含まれています。当社役員及び執行役員は、業績評価ならびに経営および投資判断をIFRSおよびIFRS以外の指標に基づき実施しています。当社独自指標においては、最も近いIFRS財務指標では含まれることとなる、または異なる数値となる一定の利益、費用およびキャッシュ・フロー項目を除外しております。当社独自指標を提供することで、当社役員及び執行役員は、投資家の皆さまに対して、当社の経営状況、主要な業績および動向のさらなる分析のための付加的な情報を提供したいと考えており、当社独自指標は、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません。投資家の皆さまにおかれましては、当社独自指標について、これらによく対応するIFRSに準拠した財務指標との照合を行っていただきますように、お願い申し上げます。

・財務情報

当社の財務情報は、国際会計基準（IFRS）に基づき作成しております。

本日の内容

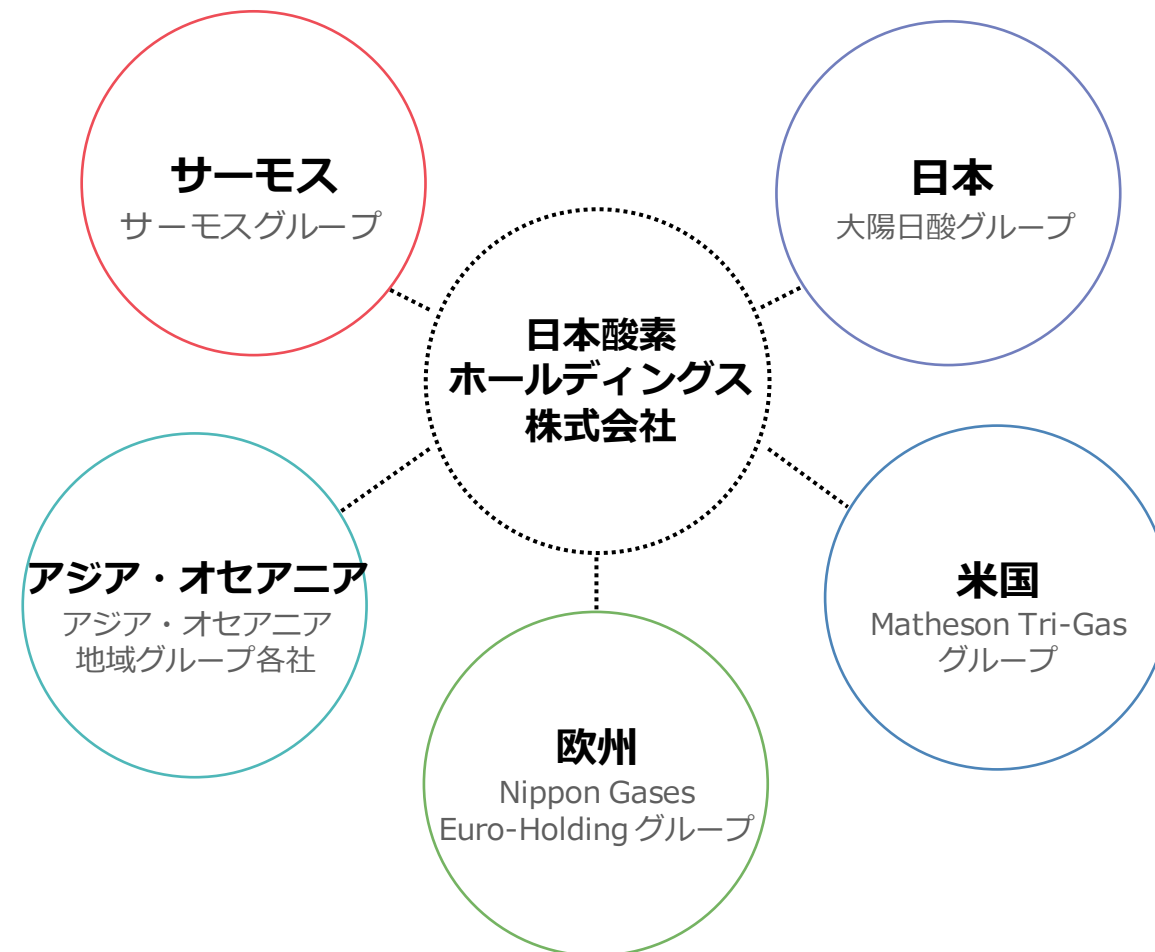
1. 日本酸素ホールディングスについて
2. 日本酸素ホールディングスの強み
3. 成長戦略
4. 株主還元

1. 日本酸素ホールディングスについて

会社概要

商号	NIPPON SANSO Holdings Corporation 日本酸素ホールディングス株式会社
証券コード	東京証券取引所 プライム市場 4091
創業年月日	明治 43 年(1910 年) 10月30日
本社所在地	東京都品川区小山1-3-26
連結売上収益	1兆3,080 億円
(2025年3月期 IFRS)	
連結営業利益	1,659 億円
(2025年3月期 IFRS)	
連結従業員数	19,754 名
(2025年3月31日現在)	
主要株主の状況	三菱ケミカルグループ株式会社 50.6%
(2025年3月31日現在)	

2020年10月から持株会社体制へ



グループ理念

進取と共創。ガスで未来を拓く。

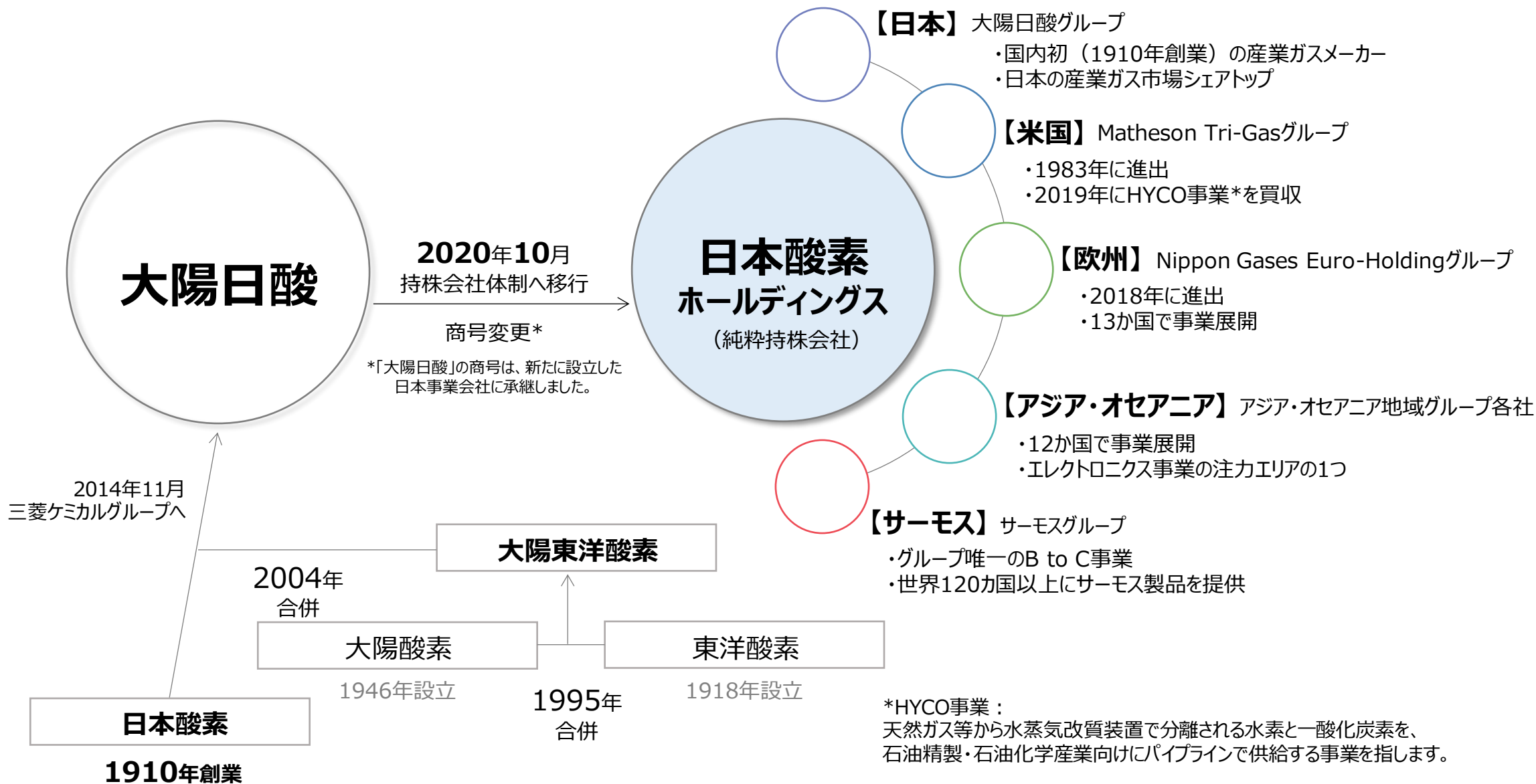
Proactive. Innovative. Collaborative.
Making life better through gas technology

The Gas Professionals

グループビジョン

私たちは、革新的なガスソリューションにより
社会に新たな価値を提供し、
あらゆる産業の発展に貢献すると共に、
人と社会と地球の心地よい未来の実現をめざします。

We aim to create social value through innovative gas solutions
that increase industrial productivity,
enhance human well-being and
contribute to a more sustainable future.



事業内容

産業ガス事業 構成比* 79%



- 主な製品**
- －酸素
 - －窒素
 - －アルゴン
 - －水素、一酸化炭素、合成ガス
 - －炭酸ガス
 - －ヘリウム
 - －上記に関連する機器・工事

エレクトロニクス事業 構成比* 18%



- 主な製品**
- －アルシン
 - －ジボラン
 - －モノフルオロメタン
 - －塩化水素
 - －ホスフィン
 - －シラン
 - －上記に関連する機器・工事

サーモス事業 構成比* 3%



- 主な製品**
- －スポーツボトル
 - －ケータイマグ
 - －タンブラー
 - －フライパン
 - －シャトルシェフ
 - －スープジャー

*構成比：2025年3月期における事業別売上収益構成比を表示しています。

産業ガスとは？

あらゆる産業分野で使用されるガスの総称（天然ガスなどのエネルギーガスを除く）

酸素
 O_2

窒素
 N_2

アルゴン
Ar

炭酸ガス
 CO_2

水素
 H_2

ヘリウム
He

LPガス

電子材料
ガス

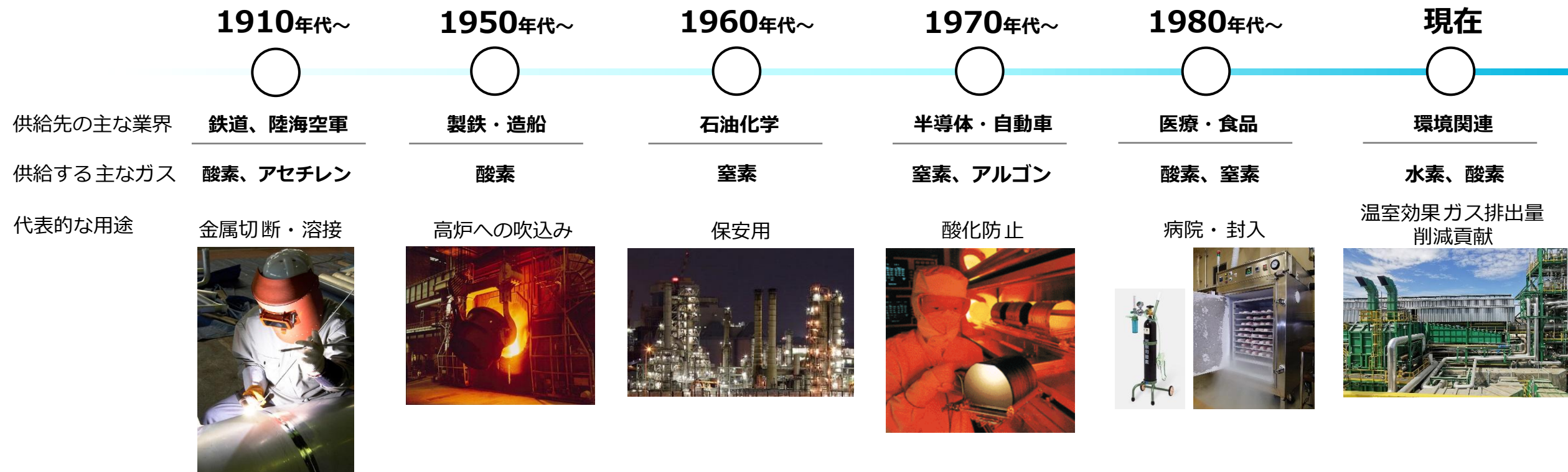
アセチレン
 C_2H_2

現代社会を支えるあらゆる産業分野だけではなく、普段の生活の何気ないところにも多く使われており、産業や社会の発展に欠かせない役割を果たしています。



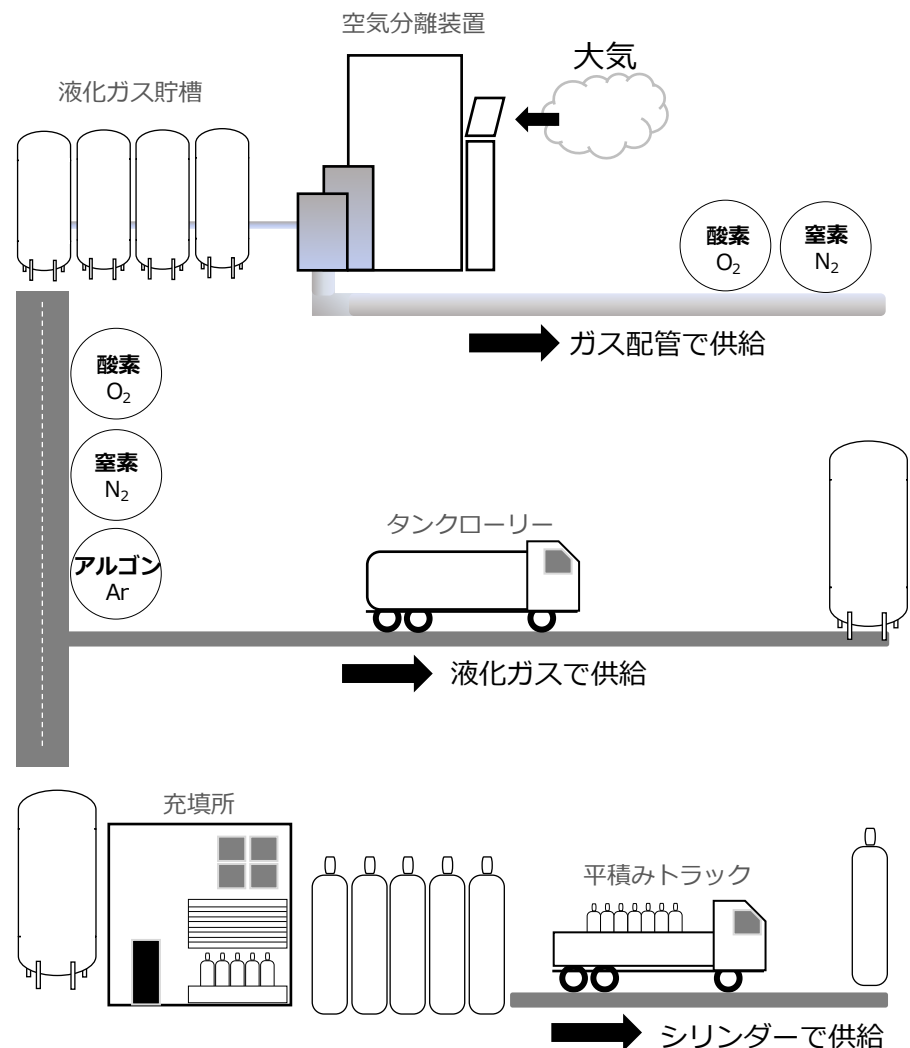
産業ガスの貢献分野

鉄鋼、化学、エレクトロニクス、輸送機器・機械、食品、生命科学・医療、エネルギー等のあらゆる産業に様々なガスの供給を通じて、産業の発展を支えてきました。また、産業の発展とともに業界・用途が広がっています。

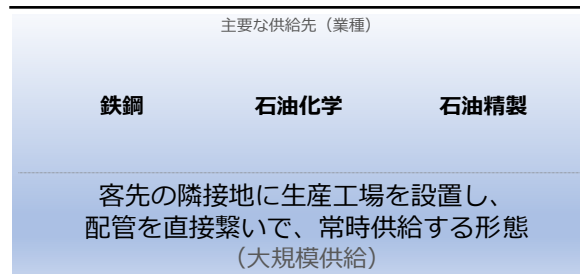


産業ガスの供給モデル

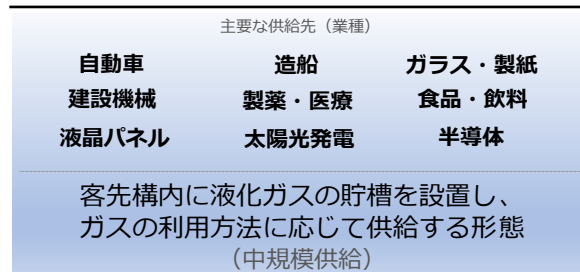
エアセパレートガス



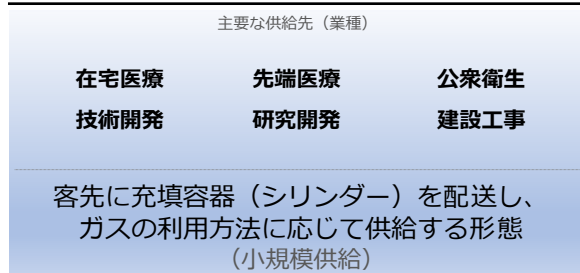
オンサイト On-site



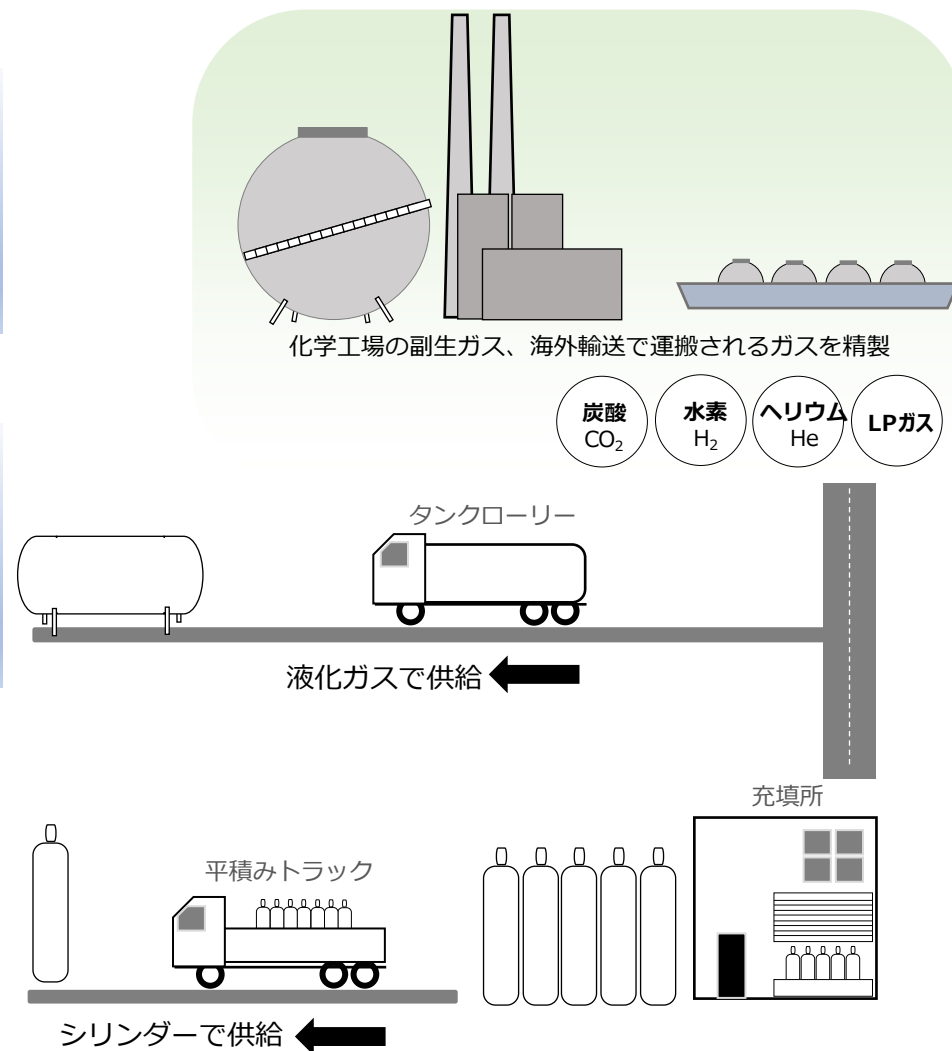
バルク Bulk



パッケージ Packaged



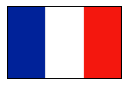
その他のガス



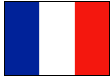
マーケットポジション

グローバル

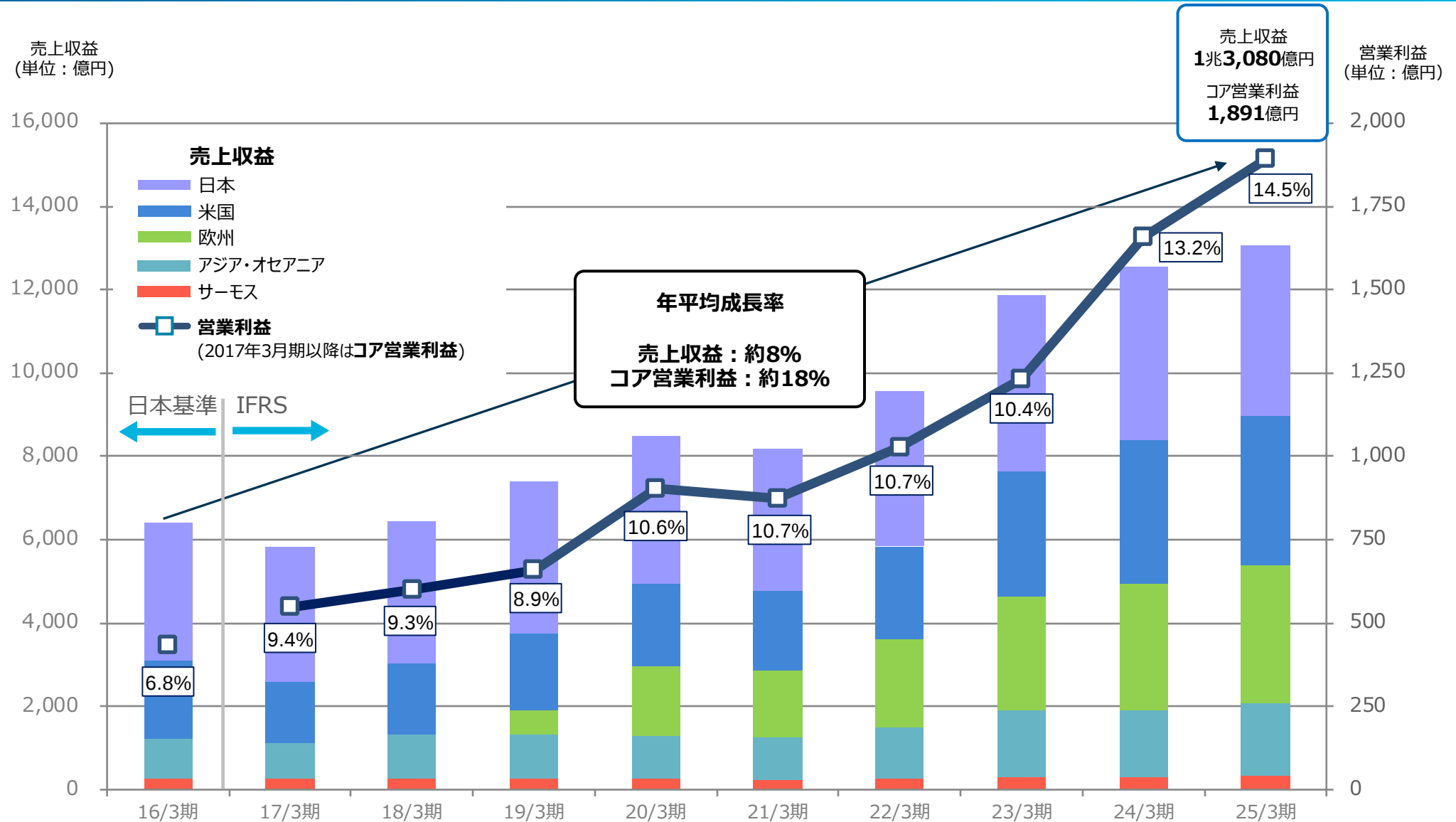
市場規模: 約14兆円
(2025年3月末時点の米ドル為替レートをもとに当社推定)

1位		リンデ Linde plc	26%
2位		エア・リキード Air Liquide S.A.	24%
3位		エア・プロダクツ・アンド・ケミカルズ Air Products and Chemicals, Inc.	14%
4位		日本酸素ホールディングス Nippon Sanso Holdings Corporation	6%
5位		メッサーグループ Messer Group GmbH	4%

日本

1位		大陽日酸株式会社 (日本事業会社) (日本酸素ホールディングスグループ)
2位		エア・ウォーター株式会社
3位		日本エア・リキード合同会社 (Air Liquide Japan G.K.)
		岩谷産業株式会社

過去10力年の業績推移

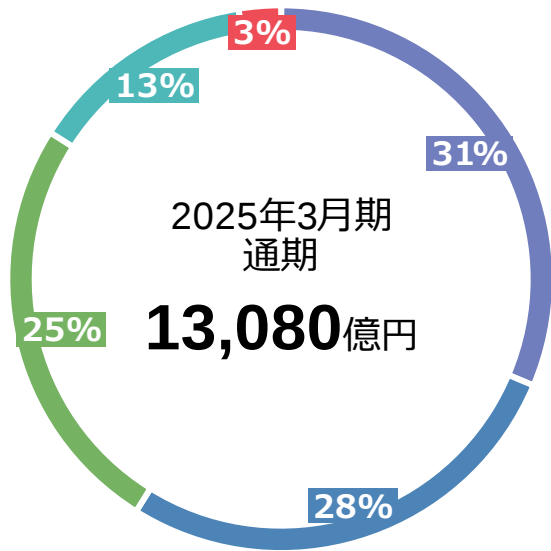


*2016年3月期は子会社の決算期変更影響がありました。(売上収益+513億円、営業利益+29億円)

*国際会計基準 (IFRS) 移行の2017年3月期以降、営業利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いて算出した「コア営業利益」で表示しています。

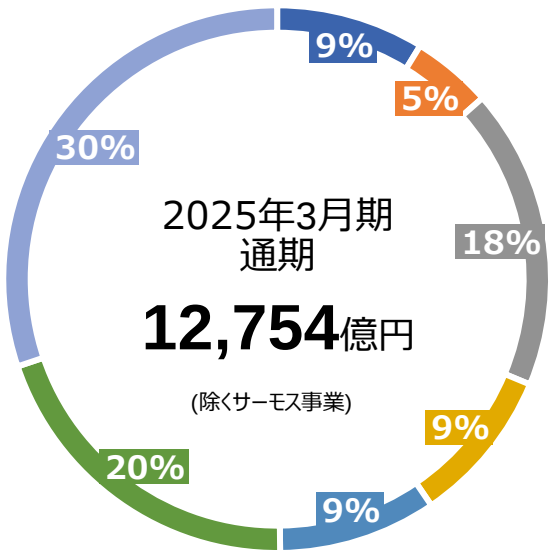
売上収益構成

事業セグメント別



■ 日本 ■ 米国 ■ 欧州 ■ アジア・オセアニア ■ サーモス

産業別



■ 鉄鋼及び金属 ■ 医療
■ 自動車及びその他輸送機器 ■ 化学及びエネルギー
■ エレクトロニクス ■ その他
■ 食品及び飲料

株式基本情報（2025年3月末時点）

発行済み株式総数	433,092,837株	株主数	12,904 人
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場	証券コード	4091.T
主な株価指数*	FTSE4Good Index Series、MSCI日本株女性活躍指数（WIN）、FTSE Blossom Japan Index、JPXプライム150		
株式所有者別割合（%）			



*当社はこれらの構成銘柄に選定されております。

2020年10月2日～2025年9月30日の期間の株価推移



(2020年10月2日)

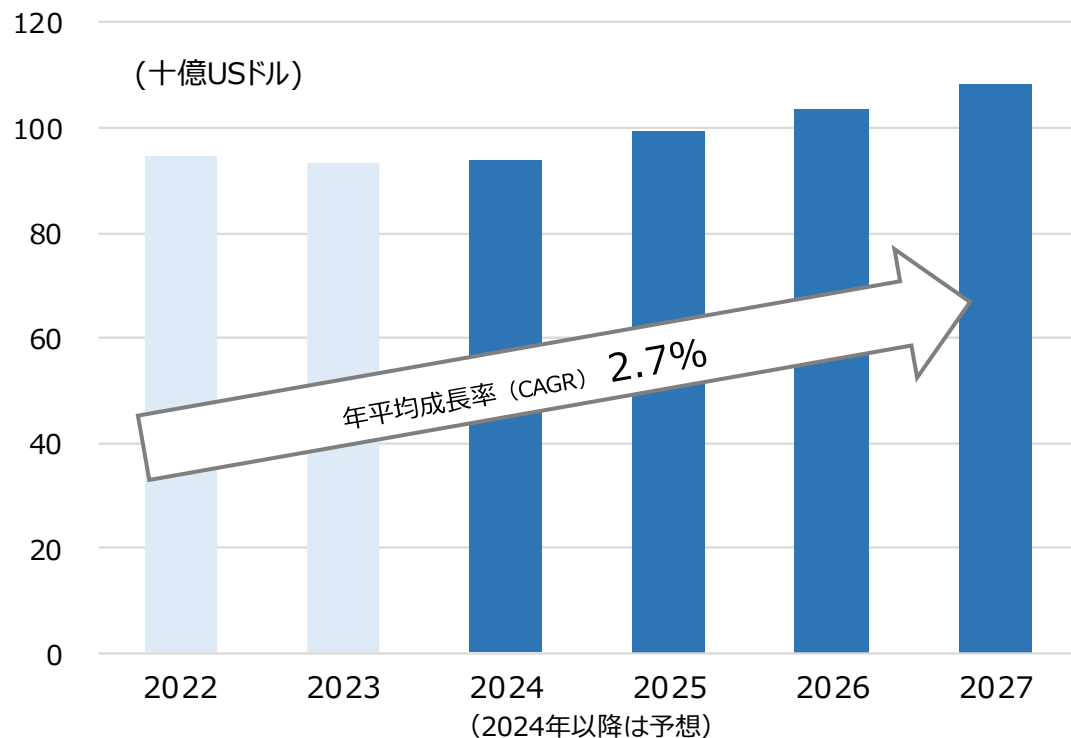
(2025年9月30日)

2. 日本酸素ホールディングスの強みについて

産業ガス市場

産業ガス市場は、幅広い産業の発展とともに成長を期待でき、特定の産業の経済環境に左右されにくく、医療・食品といった安定成長を見込める産業分野からの需要もあり、不況耐性に強いのが特徴です。

産業ガス市場規模（グローバル）*

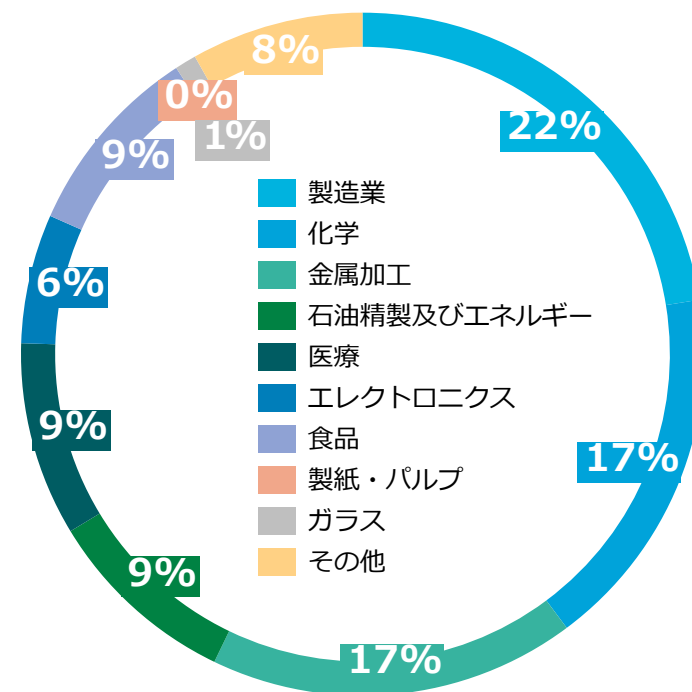


* (データ出所)

「Global Overview Gas Report」 (gasworld社発行)

産業ガス市場（グローバル）における業種別需要割合*

(2023年)



当社グループの事業運営体制

2020年10月より、純粹持株会社（ホールディングス）体制に移行。各事業会社に権限委譲を進め、グローバルガスメジャーとして、競争力のある運営体制を構築し、グループ総合力の強化を図っています。



3つの変化

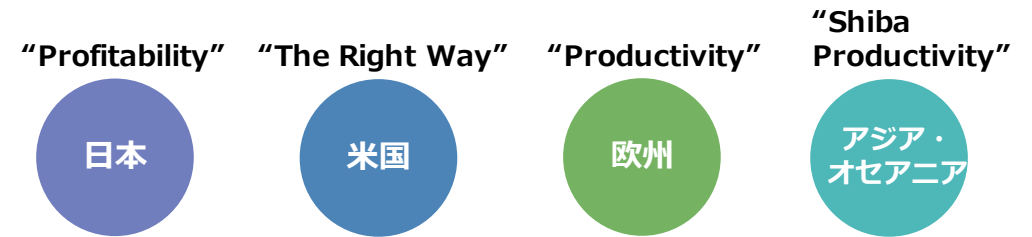
- 1 | 各事業会社に権限を委譲し、
迅速な意思決定と適切な経営資源の分配
- 2 | 事業執行責任と実績の明確化
- 3 | 各事業会社の強み、ベストプラクティスを
速やかに共有・展開できる体制

グループ
総合力の
強化へ

オペレーショナル・エクセレンス

当社グループ全体での生産性向上活動である「オペレーショナル・エクセレンス」を追求することで、オペレーション全体の効率化や最適化を進めています。

オペレーショナル・エクセレンス
オペレーションの効率化・最適化



生産性を向上し、収益性を高める

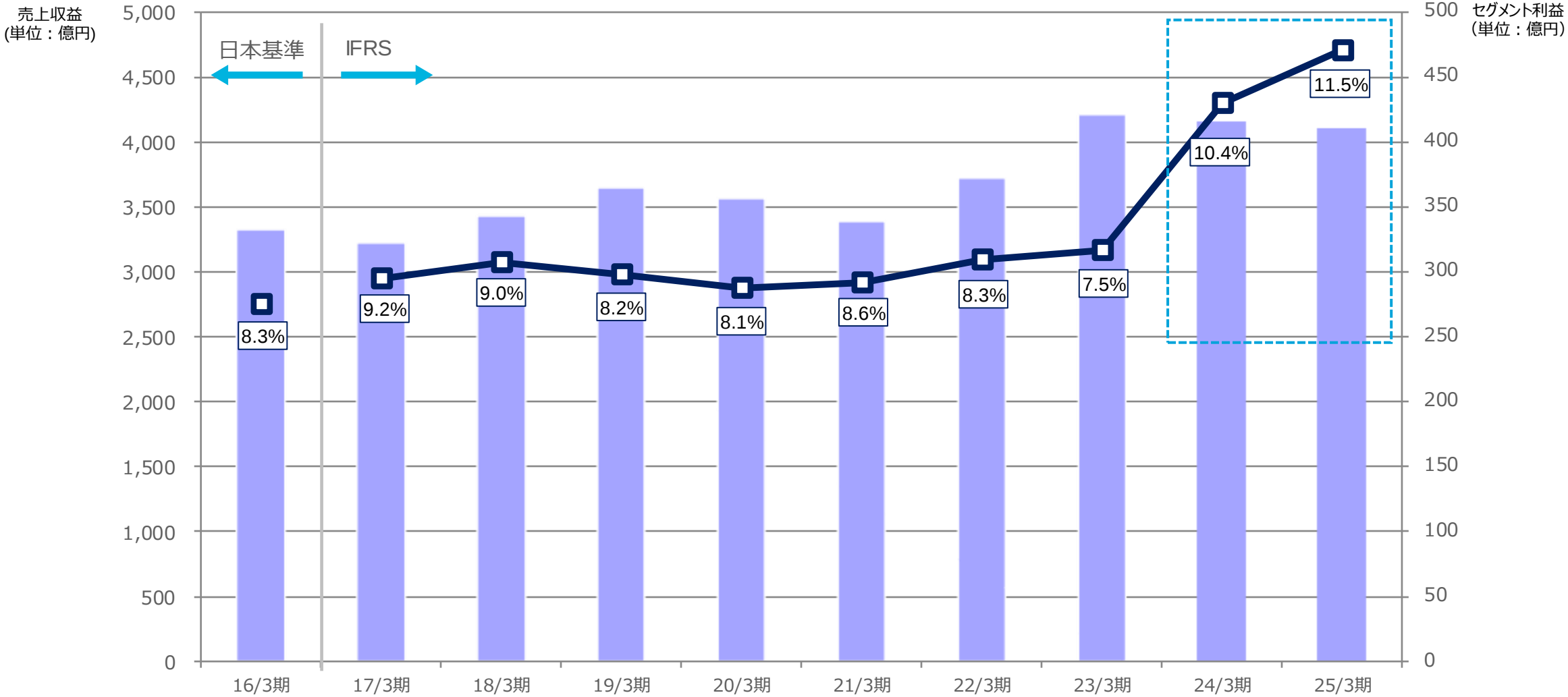
Operational Excellence Day

年に2回、各事業会社での生産性向上に関するベストプラクティスを発表し、共有しています。他の事業会社での活動に应用・展開することで、グループ全体の総合力強化につなげています。

日本セグメントの業績推移

■ セグメント利益
□ セグメント利益率

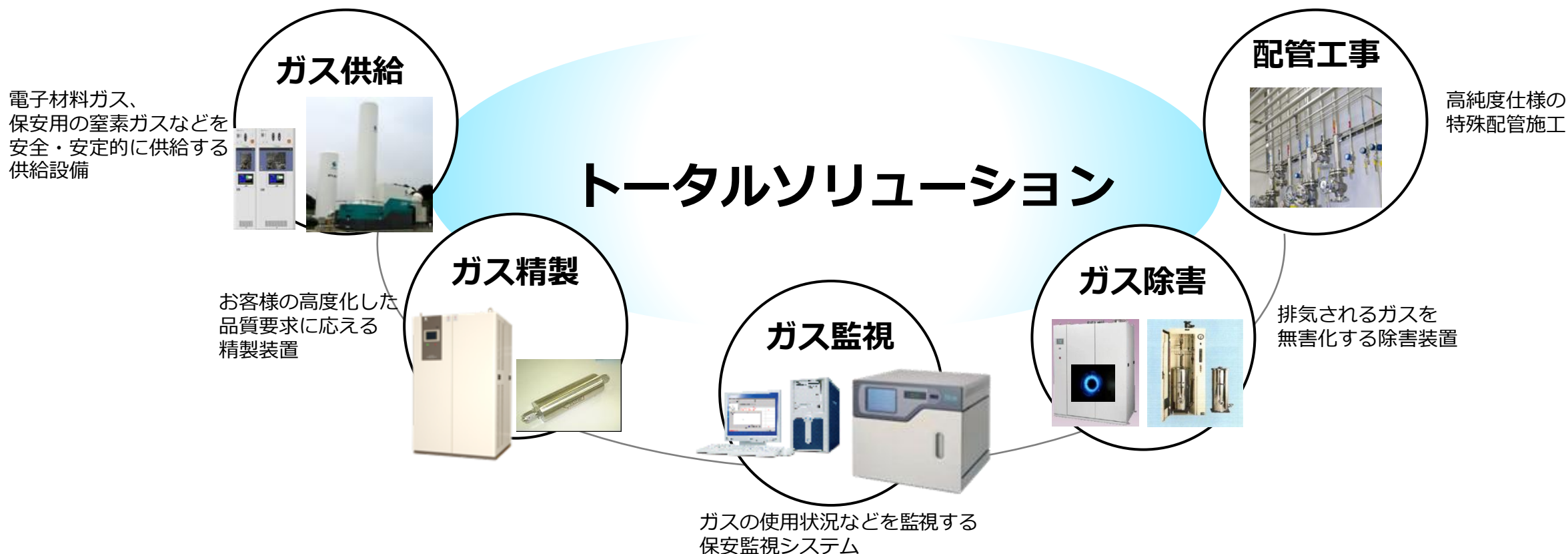
主に価格マネジメントの寄与により、直近2年はセグメント利益率が10%を上回る水準



ソリューション創出力

あらゆる産業のお客様に向けて、ガス供給、関連機器・工事・サービスなど、お客様のニーズに応じ、きめ細やかな「トータルソリューション」を提供できる体制を整えています。

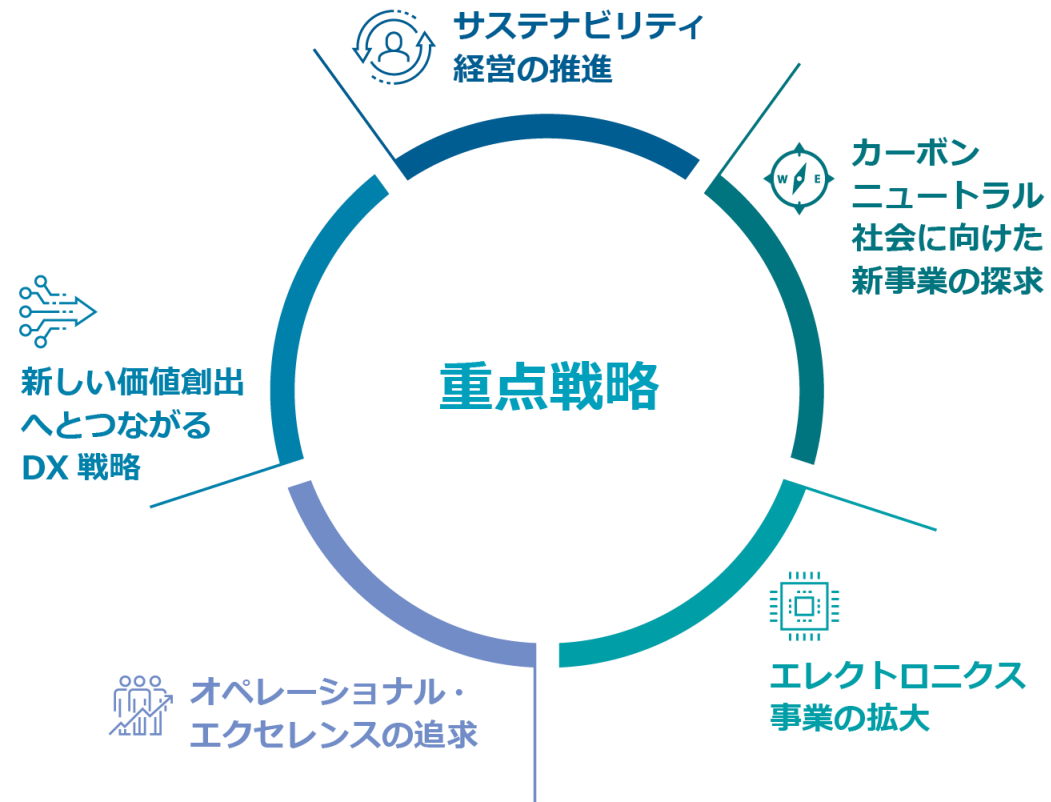
例) エレクトロニクス業界のお客様向けのご提案



3. 成長戦略

中期経営計画「NS Vision 2026」

当社は2022年4月より、2026年3月期を最終年度とする4ヶ年の中期経営計画『NS Vision 2026 ~Enabling the Future~』を策定しました。



グループ目標KPI ― サマリー

■ : 2025年3月期実績で最終年度の計画値を超えた財務KPI（業績評価指標）



売上収益

9,750 億 ~ 1 兆円*

コア営業利益

1,250~1,350 億円*

EBITDAマージン

グループ：
≥24%

日本、米国、欧州、
アジア・オセアニア、サモス：
≥17~33%

調整後ネットD/Eレシオ

≤0.7

ROCE after Tax

≥6%

環境

GHG排出量の削減率（基準年度：FYE2019）

18% :FYE2026 32% :FYE2031

環境貢献製商品によるGHG削減量

環境貢献製商品による
GHG削減貢献量

>

GHG 排出量
FYE2026

保安

休業災害度数率

≤1.6
FYE2026

コンプライアンス

コンプライアンス研修受講率

100%
FYE2026

人事

女性従業員比率

≥22% :FYE2026
25% :FYE2031

女性管理職比率

≥18% :FYE2026
22% :FYE2031



* グローバル経済の不確実性を踏まえ、売上収益およびコア営業利益は範囲表記としています。
なお、計画策定時の為替換算レート（想定）は、USD 115円、EUR 125円で設定しました。

資本配分の考え方

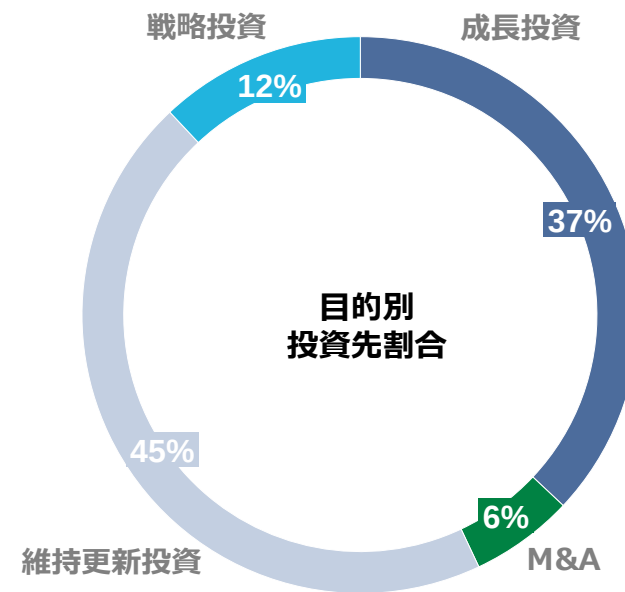
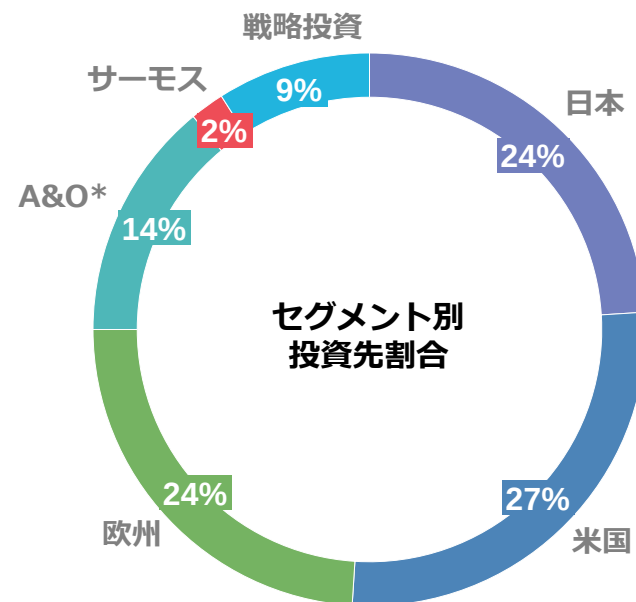
IN

OUT



➤ 戦略投資対象

- **CN:** カーボンニュートラルプロジェクト
- **DX:** デジタルトランスフォーメーション関連



(ご参考) セグメント別 投資対売上収益割合

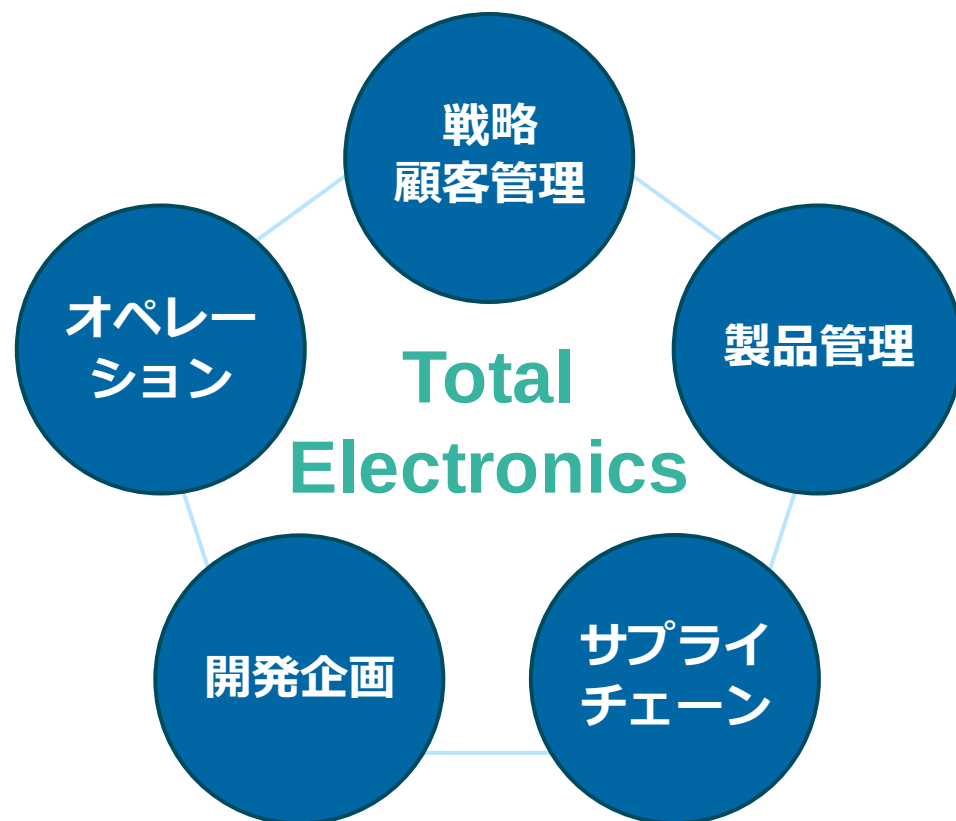
日本: 7.4%, 米国: 10.5%, 欧州: 12.9%, *アジア・オセアニア: 11.1%, サーモス: 6.9%

計画策定時の為替換算レート(想定)は、USD 115円、EUR 125円で設定しました。

エレクトロニクス事業の拡大

今後も市場の拡大が期待されるエレクトロニクス分野において、当社のグループ総合力を発揮し、各地域において新規案件の受注を企図しています。

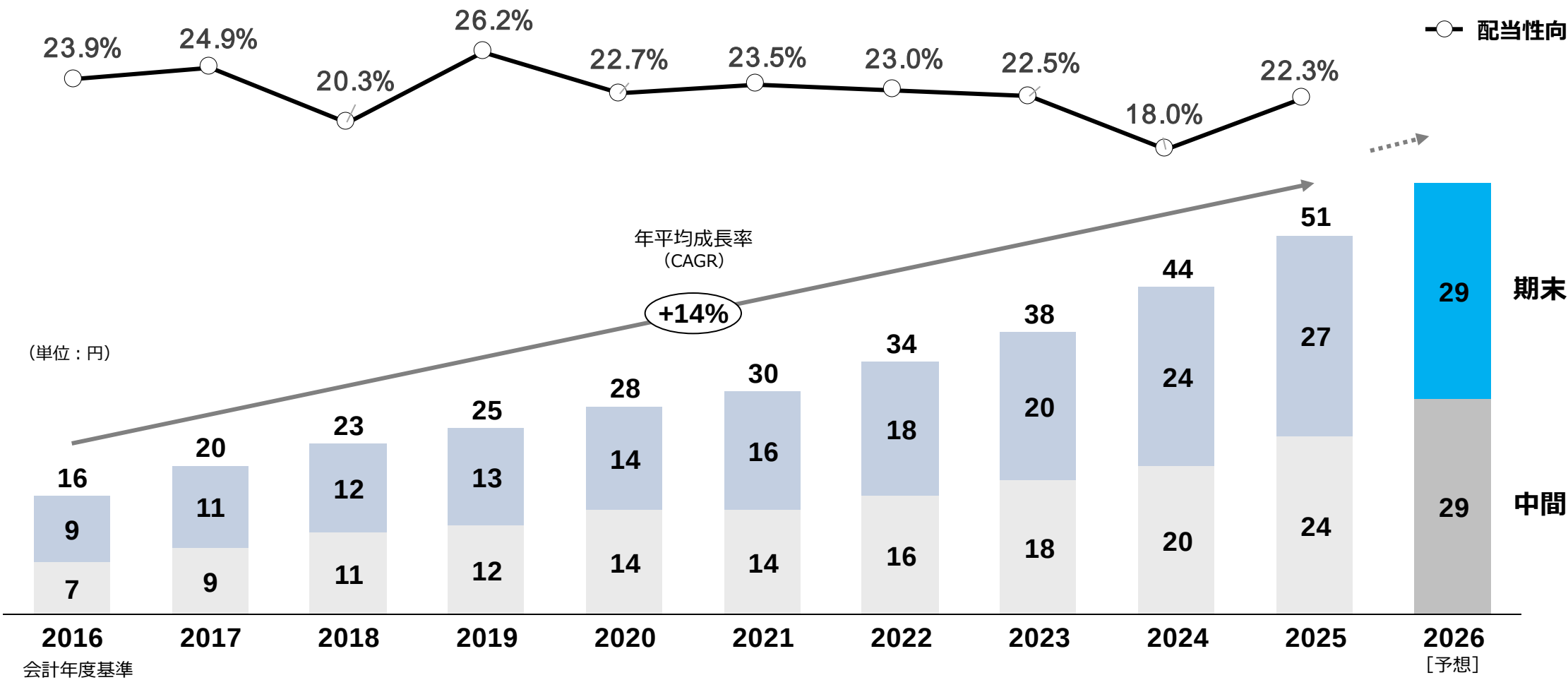
トータルエレクトロニクス



4. 株主還元

配当推移

安定的かつ着実な配当の伸び



ご案内

統合報告書

当社は 財務・非財務情報を統合的に報告するため、
2017年から「統合報告書」の発行を開始しました。
以下画像をクリックし最新版をぜひご確認ください。



日本酸素HD 統合報告書 2025

(2025年9月25日付 リリース)

詳しくはこちらのコーポレートウェブページをご覧ください>[リンク](#)



2025年版の主な特徴

01 : 当社グループの強み

「The Gas Professionals」
「オペレーショナル・エクセレンス」
「自律的な4極体制＋サーモス」
「ソリューション創出力」を挙げ、それぞれ紹介

02 : 2025年3月期のハイライト

2025年3月期におけるハイライトとして、
M&Aの推進、エレクトロニクス事業の拡大を紹介

03 : 成長への道筋

NS Vision 2026で定めた重点戦略から
「サステナビリティ経営の推進」、
「オペレーショナル・エクセレンス」、
“The Gas Professionals”を生み出し続けるための人財戦略を紹介

YouTubeチャンネル、他

当社の公式YouTubeチャンネルで、当社ビジネスや産業ガスについて解説。適宜新しいコンテンツを更新いたします。



こちらからご覧ください



お問い合わせ先

IR部

Tel : 03-5788-8512

E-mail : Nshd.ir@nipponsanso-hd.co.jp

次回決算情報

2026年3月期 第3四半期決算発表 2026年 2月4日（水）

The Gas Professionals

